


IAM MARKET INSIGHT
マーケット・インサイト

2026年6月8日

代表取締役社長 秋野 充成

今週のポイント いちよしアセットマネジメント**AI(人工知能)・半導体株への物色集中を背景に日経平均株価は先週、一時68,000円を突破**

先週3日、日経平均株価が一時68,000円を突破しました(高値:68,786.49円)。5月20日の終値59,804円から、わずか10日で15%の上昇です。この間、NYダウは1.4%、S&P500が1.6%、ナスダック総合が2.2%の上昇に過ぎなかったことを考えると驚異的です。ちなみにTOPIX(東証株価指数)は5.4%の上昇にとどまり、日経平均株価をTOPIXで割って算出するNT倍率は17倍台に拡大しました。SOX(フィラデルフィア半導体株指数)は同期間に18%上昇しており、半導体株の爆騰が日経平均株価を押し上げたこととなります。また、日経平均株価のライバルとも言える台湾加権指数は16%、韓国総合は20%上昇(3日は休場のため4日までの騰落率)しています。個別銘柄を見ても、ソフトバンクグループ(9984)、キオクシアホールディングス(285A)が一時トヨタ自動車(7203)の時価総額を上回り、22年ぶりの時価総額首位交代となりました。AI・半導体株集中相場が続くのか、当面の相場展望の重要なポイントです。

AI・半導体株集中相場となった背景には、イラン戦争による原油価格の高止まりが供給制約への懸念を引き起こし、いわゆる景気敏感株全般に業績不安が生じていることがあります。AI・半導体株については、魅惑的な長期成長ストーリー、半導体の需給逼迫、ハイパースケーラー※1の巨額投資継続、AIサプライチェーン(供給網)の充実、そしてなんとと言っても業績拡大が確信的で、過剰流動性拡大(日米欧中の中央銀行のドルベースの総資産が前年比で増加)の中、トランプ相場の継続でリスクマネーがAI・半導体株に集中したわけです。転機としては、①戦争終結による原油価格の低下、②米利下げ確率上昇によるゴルディロックス(適温相場)シナリオ回帰、③AI・半導体株集中の限界が想定されます。現状においては、①と②の確率は低そうです。③については、いつ起きても不思議ではありません。

5月の米雇用統計の発表を機に利上げ観測が高まる

5日の米株式市場は大波乱です。NYダウが前日比695.15ドル(1.34%)安、S&P500が200.57ポイント(2.64%)安、ナスダック総合が1,121.52ポイント(4.17%)安、そしてSOXが1,396.73ポイント(10.3%)と大幅に下落しました。きっかけは同日発表された5月の米雇用統計です。非農業部門雇用者の増加幅が17.2万人となり、市場予想の8万人を大きく上回りました。3~4月の増加幅も大幅に上方修正されており、雇用環境の好調さが改めて確認されました。

株式市場においては早期利上げが意識されました。雇用統計の発表を受け、クリーブランド連銀のハマック総裁は、現状のトレンドが続けば「利上げを行うことが近いうちに適切になる」と発言しました。雇用統計発表後のCME Fed Watch※2によると、今年2回利上げとなる確率は23.0%(前日10.9%)、1回利上げとなる確率は42.7%(同38.2%)にそれぞれ上昇した一方、据え置きとなる確率は27.9%(同47.4%)に低下しました。

週初の日経平均株価は大幅に下落すると思われるものの、一時的な調整にとどまると見られる

前述したAI・半導体株集中相場の転機が到来したのでしょうか？雇用統計をきっかけとして、利益確定・ポジション縮小が先行し、スピード調整が生じたことは間違いありません。SOXは5月19日以来となる25日移動平均線(12,090.841ポイント)付近まで下落しました。CME日経平均先物も63,800円付近まで切り下げており、週初の国内株式市場はAI・半導体株中心に大幅下落が想定されます。

これが転機なのか、それとも一時的な調整にとどまるのかという点ですが、2~3日様子を見る必要があるものの、AI・半導体株集中環境に大きな変化はなく、一時的な調整の可能性が高いと思われます。今回の調整が長期化するとすれば、ハイパースケーラーの巨額投資に陰りが見られたとき、もしくは現状の半導体の需給逼迫観測が緩んだときでしょうか。あるいは、米スペースXの上場も危険です(その後のアンソロピック、オープンAIも同様)。当面は本当の転機を待ちながら、AI・半導体集中相場に付き合うほかありません。AIサプライチェーンが拡散しているため、所謂「つるはし銘柄※3」候補は増加中です(玉石混交であり注意も必要ですが)。中小型株においても主要銘柄は多数存在していることから、要注目です。

※ 個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

~ワンポイント用語集~

- ※1 ハイパースケーラー…100万台以上の巨大なサーバーリソースを保有する企業の総称。世界中でクラウドサービスを展開しているAmazon、Microsoft、Google等を指す。
- ※2 CME Fed Watch…FRBがFOMCで決める政策金利であるフェデラルファンド(FF)金利の誘導目標が変更される可能性を確率で表した数値。FF金利先物の動向に基づき算出される。
- ※3 つるはし銘柄…特定の産業やブームの中で、主役となる製品やサービスを直接提供するのではなく、その産業を支えるための道具やインフラを提供する企業の株式のこと。19世紀の米ゴールドラッシュ時代に、金鉱を掘る人よりもつるはしやスコップを売った人が安定して利益を得たという逸話が言葉の由来。

◆当資料は投資判断のご参考となる情報提供を目的としていちよしアセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申し込みにあたっては、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ず内容をご確認のうえ、お客様ご自身でご判断下さい。
 ◆当資料は信頼できると考えられる情報をもとに作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。運用実績等の記載は過去の実績であり、将来の成果を示唆、保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。